

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ（Seminar Ⅲ） 263045-14000					担当教員	坂井 一貴 （サカイ カズタカ）		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	協同学習型 AL / 課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>右肩上がりではない社会，および情報化が進展し社会変化が大きい現在において，課題に対して客観的なデータを基に，解決できるのではないかという具体的な案を考え，実現するための流れ，手法について修得することを目的とする。</p> <p>具体的には，行政や民間シンクタンク等が多くの統計データ，アンケート調査を利用し，データ処理を行いそこから有用な情報を見つける技術力・思考力を身につける。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力 を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
<p>地域や社会における課題を客観的データを利用し解決策を考えていく。そのためには，日常的に社会に関心を持ち情報収集をすることが必要であることから，新聞やニュース・政府 Web サイトなどの有用な情報ソースを日々チェックをする。併せて，成果を出そうとすればゼミ以外の時間帯も利用して主体的にデータ分析やその結果に対するディスカッション等を進めることが必要である。</p> <p>また，オフラインだけでなく slack を用いたオンライン上での活動も予定している。</p>									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
統計学，Excel や PowerBI などのデータ処理ソフトウェア・ツールなどを主体的に学修する。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 各種統計データなどを適切な供給先を選択して，データを収集することができる。</p> <p>(ii) 収集したデータを Microsoft Excel®などを用いて，有用な情報として加工することができる。</p> <p>(iii) データを加工して得られた情報から，社会課題に対しての具体的な解決案を自ら考えることができる。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
特になし 「政府統計の総合窓口 e-Stat」や「RESAS 地域経済分析システム」などの Web サイトを主に活用する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
Microsoft Excel®の関数辞典や PowerBI などのツール，またはプログラム言語に関する書籍全般。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			60%		40%			100%
(i) データ収集ができる			20%		10%			30%
(ii) データ加工ができる			30%		10%			40%
(iii) 解決案を考えられる			10%		20%			30%
フィードバックの方法								

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>1年間の長期の取り組みの場合、当初スケジュールよりも進捗が遅れることが多いため、月1回のレビュー・リスケジュール等を促すコメントを多くし、事前に様式等を定めておく。</p> <p>ただし、進捗管理・リスク等も主体的にやるべき事象のため、提出を求めるようなことはしない。</p>

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	ゼミの進め方とオンラインツールの確認	パソコンまたは通信デバイス (BYOD)	オンラインツールの準備 Excel等の必要な知識・技能修得のための学修 60分
2	政府統計サイトの確認とデータ収集・CSVデータ処理	パソコンまたは通信デバイス	Excel等の必要な知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える 60分
3	政府統計サイトの確認とデータ収集・CSVデータ処理	パソコンまたは通信デバイス	Excel等の必要な知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える 60分
4	地域社会の課題についてのディスカッション	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
5	地域社会の課題についてのディスカッション	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
6	地域社会の課題についての解決案仮説設定	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
7	課題解決案を導き出すための年間スケジュール作成	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする 60分
8	データ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工する 60分

9	データ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
10	地域社会の課題についての解決案仮説検証	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする	60分
11	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
12	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
13	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	課題解決に関連するデータを各種サイトから調べダウンロードする	60分
14	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
15	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
16	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
17	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
18	追加のデータ収集および加工	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
19	地域社会の課題についての解決案仮説再検証	パソコンまたは通信デバイス	収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する	60分
20	成果発表会に向けた資料作成	パソコンまたは通信デバイス	発表用スライドの作成	60分
21	成果発表会に向けた資料作成	パソコンまたは通信デバイス	発表用スライドの作成	60分
22	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
23	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
24	成果発表会に向けた発表準備	パソコンまたは通信デバイス	発表時に原稿を持たず自らの言葉で具体的に説明できるための準備をする	60分
25	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	読み手に確実に伝わる独り善がりではない報告書にするための推敲を行う	60分

26	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	読み手に確実に伝わる 独り善がりではない報告書にするための推敲を行う	60分
27	活動報告書のレビュー	パソコンまたは通信デバイス	レビューによる指摘点を報告書に反映させる	60分
28	活動報告書の作成	パソコンまたは通信デバイス	レビューによる指摘点を報告書に反映させる	60分
29	活動報告書のゼミ内発表会	パソコンまたは通信デバイス	今年度の活動を振り返り、 全体として、または個人としての改善点を洗い出す	60分
30	1年間の振り返りと 来期の活動計画策定	パソコンまたは通信デバイス	返り来期に向けた必要な準備に 取り掛かる	60分

⑪ アクティブラーニングについて	
<p>ゼミのため、すべてのアクティブラーニング項目が該当するが、本ゼミでは特に、専門的知識・技能を活用する能力、情報収集・分析力 について強化およびそれを評価する。</p> <p>統計データを活用し現在も未解決な社会課題に対して、ゼミ全体で協同して情報収集・分析し若者としての視点を生かして解決案を策定することで論理的思考力・批判的思考力を養う。</p> <p>併せて、データを加工するためには専門的な知識・技能を用いなければならず、それらが仮に不足しているようであれば主体的に学修することで補い、それらの能力を適切な水準まで持っていく。</p> <p>ゼミのため、担当教員はあくまでもファシリテーターとして関与し、調査・研究は学生主体で行う。</p>	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性